

## 苫小牧市民自治推進会議（平成28年度第3回）会議録

開催日時 平成29年3月24日（金）午後6時30分～午後7時50分  
開催場所 苫小牧市役所9階 第2委員会室  
出席委員 谷岡会長、小山田副会長、栗山委員、佐藤委員、水口委員、山田委員  
欠席委員 川島委員、喜多委員、志方委員、山本委員  
町内会  
出席役員 第八区自治会（末岡会長、重光総務部長）  
事務局 市民自治推進課長（中村）、市民自治推進課長補佐（永井）  
市民自治推進課主査（吉田）  
説明員 市民生活課長（石井）、市民生活課主査（猿田）、  
報道機関 なし  
傍聴者 2人

### 1 開会

○事務局（中村市民自治推進課長） 本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、苫小牧市民自治推進会議を開催させていただきます。本日は、川島委員、喜多委員、志方委員、山本委員は欠席ということで御連絡がありましたので、御報告をさせていただきます。

本日の会議では、今回、モデル地区として取組を行っていただきました第八区自治会の役員の皆様にもお越しいただいておりますので、私の方から御紹介をいたします。

#### 【町内会出席者の紹介】

○事務局（中村市民自治推進課長） 後ほど第八区自治会の皆様からは、モデル地区として取組を行っていただいた感想などお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それでは、谷岡会長よろしく願いいたします。

●谷岡会長 今日、御多用中にもかかわらず、皆さんにお集まりをいただきましてありがとうございます。この推進会議の2年の任期が満了となりますので、皆様方の御忌憚のない御意見をいただき有意義なものにしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。簡単ですが、挨拶に代えたいと思います。

それでは、会議次第により、(1)町内会加入促進のモデル地区への支援結果報告書（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

### 2 会議

#### (1) 町内会加入促進のモデル地区への支援結果について

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは皆様のお手元でございます「町内会加入促進のモデル地区への支援結果報告書（案）」を御覧ください。こちらの資料は、事前に委員の皆様を送付させていただいたものと同じ資料となっております。

私の方から報告書（案）の内容について、概要を説明させていただきます。それでは、資料の2ページを御覧ください。2ページにはモデル地区の選定ということで、モデル地

区に応募のありました町内会の応募当時の加入状況や、モデル地区として第八区自治会を選定させていただいた経過などについて記載しています。

3ページから4ページには、実際に取り組んだ内容について記載しています。3ページを御覧ください。取り組んだ項目として、(1)町内会のフェイスブックの開設及び情報更新の支援。これは、町内会のフェイスブックの開設を支援し、町内会活動の情報発信を行います。また、開設後の情報更新など、フォローアップを行います。(2)QRコードを印刷した加入促進チラシの作成支援。主に若者の未加入者対策としてQRコードを入れた加入促進チラシの作成支援を行います。(3)加入促進チラシの配布。未加入者に対して加入促進チラシを配布し、町内会加入率の向上を図ります。4ページを御覧ください。(4)町内会役員の業務の見える化。役員就任への負担・抵抗感の解消につなげるため、役職ごとの業務内容及び業務量を明らかにするための取組を進めます。(5)町内会フェイスブック意見交換会の実施。フェイスブックページによる効果的な情報発信につなげるため、町内会フェイスブックページの担当者による意見交換や交流を実施します。(6)モデル地区の町内会役員等を対象とした町内会加入促進研修会の実施。モデル地区の町内会役員等を対象とした研修会を開催し、町内会未加入者問題など、町内会の課題を町内会全体の問題として捉えることができるよう、意識の向上を図ります。以上、6つの取組とそれぞれの支援結果について3ページから4ページには記載しています。

5ページから8ページについては、それぞれの取組の効果について記載しています。5ページを御覧ください。①町内会フェイスブックページの開設及び情報更新の支援ですが、今回の支援で柱となった取組になります。効果として、5ページ下段のモデル地区フェイスブックページ閲覧者データにありますとおり、閲覧者の約7割が44歳以下となっており、閲覧者の人数も大きな行事では多くの方に閲覧いただいていることから、比較的、若い層に対して町内会活動の見える化が進んだということを記載しています。また、町内会未加入者にも町内会活動をお知らせできる重要な情報発信のツールであるとともに、既に町内会に加入している方に対しても、写真や動画などを活用することで、より分かりやすく町内会活動をお知らせすることは、加入者を大切にするという観点からも意味があるということについて記載しています。

続いて6ページを御覧ください。②QRコードを載せた加入促進チラシの作成及び加入促進チラシの配布についてです。加入促進チラシについては、報告書(案)の19ページ、20ページに参考資料として掲載していますが、今年度の第1回市民自治推進会議の中で報告させていただいたものと同じものになります。チラシ作成に当たってのポイントや、加入促進チラシのQRコードから町内会フェイスブックページにつなげてもらうことに重点を置いて作成したことについて記載しています。また、加入促進チラシを一部の地区で先行配布し、実際に一人の加入があったこと。加入促進チラシで加入した方が、加入の方法が分からなかったという理由で未加入になっており、潜在的に同じ理由で未加入になっている方がいる可能性があること。町内会加入率の向上には、こういった人たちに確実に町内会に加入してもらうということが大切ではないかということについて記載しています。

③町内会業務の見える化は、役員就任への負担、抵抗感の解消につなげることを目的として、各部ごとの年間スケジュールと主な業務内容が分かる一覧表を作成したことについて記載しており、報告書の23ページから26ページにモデル地区の町内会年間業務一覧表を掲載しています。この取組の効果については現時点での把握はできませんが、業務が見えない状況と業務が見えている場合を比べた場合には、業務が見えている方が不安を軽減できるのではないかと記載しています。

続いて7ページを御覧ください。こちらのページには、昨年の12月に行った町内会フェイスブック担当者の意見交換会について記載しています。意見交換を通じて情報共有が

図られたという点と、町内会どうしの横の連携が深まる契機になったという効果の記載の他、町内会フェイスブックの主なメリット、「印刷と配布の手間が掛からず、印刷コストも掛からない。」、「町内会行事の実施結果を写真や動画を使用し、分かりやすくお知らせできる。」、「コメントや「いいね！」の機能を通じた双方向のコミュニケーションが可能。」、「更新作業が比較的、簡単なため、気軽に素早く情報発信できる。」

デメリットとして、「フェイスブックになじみがないとなかなか見てもらえない。」、「インターネットを通じたツールを好まない人もいる。」、「写真や動画の投稿は、個人情報に気を使う。」、「町内会フェイスブック担当者個人の感想などが掲載される可能性がある。」。また、意見交換会で出された主な意見として「町内会フェイスブックは、気軽にやる、楽しんでやるということが大事」、「町内会フェイスブックをどう活かしていくのかは、町内会自身の考え方だと思う。」、「写真や動画の掲載には、プライバシーに配慮する必要があると感じる。」、「情報共有が大切なので、今回のような意見交換の場がたくさんあるといい。」、「町内会行事だけでなく、自分の住んでいる地域の情報も発信していきたい。」、「地域の活性化には、フェイスブックなどITの活用が必要だと思っている。」、「他町内会のフェイスブックを見ることで、自分の町内会の参考になった。」ということを記載しています。

続いて8ページを御覧ください。こちらのページは、先月、行われたモデル地区の町内会役員等を対象とした町内会加入促進研修会について記載しています。報告書にありますとおり、講師については小山田副会長をお願いをして研修会を開催させていただきました。研修会終了後のアンケートでは、「研修会の内容を今後活かして、町内会加入促進の取組を行っていききたい。」といった前向きな意見が多く、町内会の課題に対する意識の向上に効果があったことについて記載しています。また、研修会アンケートの主な意見として、「町内会加入率の向上には、地道な活動を続けることが大切ということが分かった。」、「町内会活動を充実させるには、新しい取組が必要だと思った。」、「未加入問題の解決には、子どもの頃からの教育が必要だと感じた。」、「今回の研修会を今後の町内会活動に活かしていきたい。」、「町内会に未加入の人に今回の話を聞いてほしかった。」、「町内会加入の勧誘には、まず、「聞く」ことが大事だと分かった。」、「町内会活動を円滑に行うために、住人の情報を把握する方法が必要だと思う。」といった意見を記載しています。

9ページ、10ページには取組の課題について記載しています。初めに9ページを御覧ください。町内会フェイスブックは、町内会の見える化には一定程度の効果があったものの、町内会加入率の向上には、大きな効果が得られなかったこと。今後は、町内会フェイスブックを利用した町内会加入の申込みの検討や、町内会フェイスブックの魅力的なコンテンツを考えていく必要があること。また、他町内会、他団体との連携に町内会フェイスブックを活用するといったことの必要性について記載しています。

10ページを御覧ください。町内会役員の業務の見える化についての課題として、多くの業務をこなしている場合に、詳細な業務量を明らかにすることは、逆に役員の引き受け手がなくなる可能性があるため、見える化のバランスが重要であること。また、役員の負担軽減には、役員引継ぎマニュアルの作成といった方法も考えられることについて記載しています。

意見交換会や研修会の課題として、定期的開催することは大変ですが、継続していくことが大切ということ。研修会については、未加入者に参加してもらえる工夫をすることが必要ということ。最後に、課題の主なポイントについて記載しています。

11ページを御覧ください。「おわりに」ということで、今回の取組を振り返ったまとめについて記載しています。今回の取組で町内会フェイスブックという新たな情報発信のツールが増えたことに大きな意義があったことや、この支援の開始後に町内会フェイスブックを開設した町内会が増え、町内会全体としてもよい効果があったこと。また、町内会の

抱えている課題の解決には、地道な取組を継続していくことが重要であること。最後に町内会の課題は自分たちが解決していくという意識が大切ということを再認識できたことについて記載しています。

13ページ以降は、参考資料となっております。資料1、15ページ、16ページになりますが、今回の取組で一番最初に行った町内会フェイスブックページ開設キックオフ説明会で使用した資料の抜粋となっております。資料2が19ページ、20ページにございますが、今回、新たに作成したモデル地区の町内会加入促進チラシになります。資料3は21ページ、22ページになりますが、今回のモデル地区への支援を行っていることをお知らせした広報とまこまい10月号の抜粋となっております。資料4は23ページから26ページになりますが、モデル地区の第八区自治会の年間スケジュールとなっております。資料5は27ページから30ページになりますが、第八区自治会加入促進研修会の資料の抜粋となっております。最後の資料6、31ページ、32ページは、市民生活課が町内会全体に対して行ってきた支援をまとめた資料となっております。報告書（案）の説明については以上となります。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。それでは、ただ今の説明に関して何か御質問はありませんでしょうか。

順番に御感想などを聞いていきたいと思っておりますけど、どうですか。水口委員。

●水口委員 町内会でフェイスブックっていう今の伝達方法の一つかもしれないですけども、やはり、40代くらいの方がほとんど、40代以下の方が70パーセント占めるっていうことと、まあ、それ以上の方は、そのフェイスブックを見る環境にない人が多いんじゃないかなと思うんですけども、これは、ずっとやってて、やっぱり効果のほどっていうのは、すごく出ているんでしょうか。

●谷岡会長 どうですか、事務局。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、ここのデータ上の話ということにはなってしまうんですけども、当初、今回の取組を始めたきっかけとして、やはり一つ、若年層へのアプローチというところが議論に挙がっていたと思いますけれども、その点に関して言えば、今回のこのフェイスブックのデータの中で、やはり比較的若い層の方が見ていると。そして、一定程度の閲覧者、当然、投稿の記事によって多い少ないはあるんですけども、多くの方に見ていただいている記事もございまして、町内会の見える化として、まあ、比較的若い層の方に町内会活動を知ってもらおうといった効果は一定程度あったものと考えております。

●水口委員 それとですね、結果的に私もフェイスブックは見るんですけども、「いいね！」を押すだけで終わってしまうんです。それに対して、コメントが返ってきて、もう少し具体的にフェイスブック開設者の方に、「こういう行事あるからどうなんですか。」っていう、そういう問い合わせっていうのはあるんでしょうか。多分、これ（資料のデータ）は「いいね！」の回数かなと思うんですけど、その辺はどうなんですかね。ということは、そうやって（コメントが）あることにより興味を持って、関心を持っているということだと思うんですけどね。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） フェイスブックへの反応として「コメント」って

というのが今おっしゃっていたようにあるんですけれども、なかなかコメントをもらうっていうことは、正直そう多くはないと思います。やはり、本来そういった「コメント」っていう機能を通じて双方向のやりとりができるっていうことがやはり理想としてはあるかとは思いますが、これは今後、フェイスブックを継続していく中でそういったこともどんどん増えていけばいいなというふうには感じております。

○事務局（中村市民自治推進課長） 補足をさせていただきたいんですが、フェイスブックのページの機能の中にですね「問い合わせボタン」とかそういうものを付ける機能が備わっているんですが、フェイスブックページをスタートするに当たって、その問い合わせのボタンを付けてスタートすると町内会側の負担がかなり多くなるという問題が実はあるんですね。それで、スタートに当たっては、私どもの指導の中では、町内会の中で問い合わせに対するその体制が間違いなく取れるというような段階に成熟した段階で、「そういう機能も、当然、付加していくということは考えていってください。」ということの投げかけはしています。ただ、そこはやはりですね、ハードルが高いというのが、現状になります。

●水口委員 分かりました。

●谷岡会長 はい、山田さん。

●山田委員 フェイスブックを使って活動を明らかにするというのは、すごく新しい取組ですし、注目度が高いのかなというふうに感じています。まあ、7割くらいの方が若い層、44歳までの方ということなんですけど、この方たちの加入、未加入は把握できるものなんですか。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） これは、フェイスブック上ではですね、そこまでの把握は正直できないということになります。

●山田委員 まあ、どちらにしても関心が高いということはいいことだとは思っているので、若い層をターゲットにして、その方たちに見ていただいたっていうのはすごくいいことなのかなとは思いました。先ほど言われたように、管理する側としてはやっぱりいろいろ問題はあるのかなと思いますし、頻繁に更新しないと見てくれない、見ませんよね。さっき言われたように、何かこう、「いいね！」だけじゃなくて質問したことについて返ってくるという、そういう作業、手間、発信する方としてはやっぱりすごくそれが手間だとは思いますが、見る方は簡単なんですけど、そこら辺がやっぱり、こう、充実して初めて発信に効果があるのかなと思いますので、その辺、課題があると。今、言われましたけど、すごく感じるどころですね。

それからチラシに関してなんですけど、1人の加入があったということなんですけど、この方は実際には、どのくらいの世代でどういうイメージの方だったんですかね、すごく貴重な方ですよ。もし、差し支えなければ、参考までに。

◎第八区自治会（重光総務部長） 第八区自治会の方でチラシによって加入してくれた夫婦なんですけど、年代的には50代の夫婦。お子さんがいないんですが、そのチラシを見て入りたいと思ったけど、「(今までは) どんなふうにしたら入れるのか分からなかった。」ということで入りました。その他にここに記載はありませんが、20代後半の夫婦、これからはもう少しで子供が生まれるという方、この方も町内会に入りたいということで、問い合

わせがあり、現在、加入しております。

●山田委員 あの、チラシの効果っていうのは。まあ、あったんでしょうか。

◎第八区自治会（重光総務部長） 地味ですけども、あります。

●山田委員 今後も継続されるのですか。

◎第八区自治会（重光総務部長） 第八区自治会においては、ちょっと地域が広いので、組織的に四つのブロックに分けて、その四つの一つ一つに副会長が付いているんです。4人の副会長が付いて、そこを中心に今年は加入促進のチラシを配布する予定でいます。

●山田委員 町内会の特徴として、すごくアパートがあつて、一戸建ての世帯がすごく多くて、アパートも、まあ、そこそこ。加入率はもちろんアパートの方が少ないということなので、ターゲットとしては、本当に絞り切れるところですよ。

◎第八区自治会（重光総務部長） 第八区自治会、先月、昨年の総世帯数2,800世帯なんですけど、町内会加入世帯数は1,100世帯ちょっと切れるくらいなんです。加入率、30数パーセントなんですけど、アパートがここ数年で増えてきているんです。その後の加入率が低いと。そうするといろんな、例えばごみ収集にしてもいろんな手間は町内会の方にかかっていることが随分あるんです。それで、少しでもそういう促進の何か知らせる方法。町内会の活動を知らせる方法はないかということで、少しでもそういう行事に参加してもらおうとか、要するにごみ片付けとか、そういうのもいいからやってほしいっていう気持ちはあるんです。町内会の内情を知ってもらいたい。そういうのがこの（モデル地区への応募の）きっかけにもなっています。

●山田委員 チラシの内容を変えつつ、新しい情報を入れつつやられたら、すごく反応、それこそ見える化の一つになるんじゃないかと思います。

◎第八区自治会（重光総務部長） このチラシ、昨年配ったんですが、これを基に今年どういうふうにするか、町内会でいろいろ役員同士で話し合ひまして、これをどうすればまた効果的になるのか。それを考えながら、この方がいいっていうのであれば、これでやりますけども、これは町内会でやっていきます。

●山田委員 ありがとうございます。

●水口委員 今、あの、閲覧の多かった投稿って、フェイスブックのことなんですけど、今、2,800世帯で、1,160世帯くらいが加入者だということだったんですけど、そうするとこの閲覧者数っていうのが504人とか469人。すごく多いんですけど、まあ、これは（閲覧者がモデル地区の）町内会とは限らないって、まあ、市内どこの方でも閲覧できると。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） そうです。

●水口委員 ちょっと、こう、（モデル地区）町内会だけで見ると（閲覧者が）半減するの

か、何パーセントか分かりませんが、データの的には、そういうことですね。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。栗山委員、お願いします。

●栗山委員 地道にやっていって、やはり、時間が掛かることなんだろうなというふうには思います。私も実は、第八区自治会のフェイスブックを見たんですけど、ほのぼのとする記事が多くて非常にいいなと思いました。問題は、あとどのくらいを目指してやっていくのかということと、ただ、まあ、いろんな人を見ることによって活動も町内会だけじゃなくていろんなところから刺激もあると思うので、続けられるだけ続けていった方がいいのかなと思いました。まあ、コメントするところもありますので、ただ、知っている人はこういうことは、書いてもいいのかなと思いますけどね。以上です。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。

○事務局（中村市民自治推進課長） 先ほど更新の頻度のお話もあったところなんですけれども、フェイスブックページを継続するという観点も一つ考えておく必要があるのかなということなんです。というのは、あまり更新が義務的になるというか、更新していくのがつらくなるというような状況になると、やはり継続していくのが難しいので、私ども、「どの程度で記事を更新していったらいいんですか。」という相談受けるときには、「気楽に楽しんでやってください。」ということを中心に指導はしています。ですから、まあ、見てもらうっていうことも当然、大事なので、そのためには記事の更新は必要なんです、なおかつ、「気楽にできる範囲でやってください。」というお話はさせていただいておちます。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。どうですか、小山田委員。

●小山田副会長 はい、まず、あの1年間、ここまできちっとやってこられて体制を作られて、非常にスピーディに進められたというふうに思います。これからフェイスブックの中身というかコンテンツの問題になってくると思うんです。というのはですね、見ている世帯がボリュームゾーン、ちょうどいいところの世帯の方が見えていますから、どうでしょうかね、5回に1回ぐらいは「お願い」を入れていってもいいんじゃないでしょうかね。「こういうことで、人手を募集しています。」っていうようなこと含めて。あるいは「新しい役員になってみませんか。」とか。そんなふうなことを中身に入れていくというのも一つだと思うんです。

やがて、その、市民の参加から参画に。来年度、また、少しね、レベルが上がっていくと、よりその情報の密度って高くなるから質も上がるし、そういったものも見てもらうためにも、双方向のためには少しお願いをしていってもいい時期に入るんじゃないかなというふうに思いますね。「3名足りません。」とかね、「お祭りやるのに何歳くらいの方、希望します。」とか。そういうのを出していってもいいんじゃないかなと思いますね。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。佐藤委員、お願いします。

●佐藤委員 二つお尋ねしたいことがあります。一つ目は、実際に、この更新されている方って、まず、普段からフェイスブックを見て、御自分が使っているのかどうかということが一つと。もう一つ、例えば町内会活動をフェイスブックで広めたいっていうその気持ち

はすごく分かるんですけど、例えば活動だけじゃなくて先ほどコンテンツの、中身のことおっしゃってましたけど、例えば「町内会の飲食店さんを紹介するよ。」と。紹介して、「特典あるから、みんな行こうよ。」みたいな、そういう企画だとか、若い層の方が見ているっていうことは、そういう情報、若者がほしい情報ってそういうところもあると思うんですよ。その辺、どのように考えているのかなと。その二つ、お伺いしたいと思いました。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） フェイスブックのコンテンツの話、今、御質問いただいたんですけども、町内会フェイスブックの意見交換会の中でもそういったお話、いろいろ出てまして、コンテンツの話が出ておりまして。あの、やはり、今、佐藤委員おっしゃっていたような地域にあるお店の情報だとか、そういった地域に関する役立つ情報とかそういったものを今後、発信していきたいっていうようなことは、これは、モデル地区の第八区自治会さんもそういった意見交換会の中でお話しておりまして。今、やっとフェイスブックが今年度、しっかりと軌道に乗ってきましたので、今後はそういった新たな魅力あるコンテンツの発信ということが一つ重要なポイントになってくると思います。

最初の御質問の方が、普段フェイスブックを使っているかどうかということでしょうか。

●佐藤委員 そうです。個人的っていったら、多分、負担あると思うんですけど。例えば閲覧だけでも頻繁になさっているのかなと思ひまして。

◎第八区自治会（重光総務部長） 頻繁にはしていません。ちょっと、（フェイスブックを）開いたときに他の（フェイスブックを）見たりとか、そういうふうにはしていますが、他に仕事があるので、それにかかりつきりにはできないので。

●佐藤委員 どのようなふうになさっているのかなと思ひまして、ありがとうございます。

●谷岡会長 あと、事務局の方でその他に何かありませんか。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） 一通り、委員の皆様から御感想をいただきましたので、今日、第八区自治会様に来ていただいておりますので、実際にモデル地区として取り組まれた御感想などいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

◎第八区自治会（重光総務部長） 第八区自治会の総務部長を務めています重光と申します。よろしくお願ひします。このフェイスブックですね、正直行って去年の4月だったんですが、市民自治推進課の募集のとき、フェイスブックって何だか分からなかったんです。本当に分からなかった。FBとか書いてあって、分からないんです。そして話を聞いて、ああ、こういうものかと分かりました。

市民自治推進課の支援を受けながら、4月に（町内会フェイスブックを）開設、そして5月から配信するようになりました。初め「何を配信していったらいいのか。」っていうのにちょっと迷いました。要するに町内会として、何をみんなにそれで知らせるのかということ。それで、最初はいきなり町内会の活動に関して出すのではなく、ちょうど5月だったもので町内会の桜、あちこちにあるんですが、その中できれいな所、それを写真に撮って桜の風景を流しました。その後、順番を追って、今度、町内会の役員会議の様子、そして、それを経て今度、町内会の事業、例えばお祭りとか餅つきとか、いろんなそういう事業、風景を流していきました。それが一つ。

それと、その合間に町内会、うちには開成中学校と清水小学校があるんですが、学校の方に行きまして、その学校事業に町内会が参加するのが結構あるんです。例えば花いっぱい運動とか、学芸会は見るだけですけども、その学芸会とかそういうのを映して配信。そして、あの開成中学校はですね、今年、陸上競技場を使っての体育祭を開いたんです。それで、それもすぐ配信しました。写真に撮って1時間以内にフェイスブックで配信。まだみんなここで運動しているんですが、配信しました。結構、見るお母さん多いんですね、そこでね。そういうことをやってきました。その他に学校の行事、そして、隣の町内会、春日清水町内会があるんですが、この町内会とも例えば旗の波運動、これが一緒にやったりするもので、春日清水町内会の活動も流しました。

ちょうど、50周年記念式典がありまして、春日清水町内会、その状況も第八区自治会の方で流しました。流しているうちに、写真だけじゃ見る人が限定するもので、動画を配信するようにしたんです。そうすると、動画は見る人が極端に増えるんですね。その効果がありまして、配信するときは必ず一つ動画を入れるようにしています。その動画も大体3、4日置いて、また新しいのに変えたりとか、そういう形にしています。

このフェイスブックでやって良かったなと思うのは、この資料にもありますけども他の町内会とのフェイスブックを通しての交流といいますか、話し合いができるということ。電話がきたりとか、そういうことしまして、「これ、こうだよ、ああだよ。」そういう話をできるようになったということがあります。そして、先ほどありましたけども、町内会の行事についての説明なんですけど、イベント情報ってありまして、例えば町内会で何をやる。「何月何日何時から、どこどこで何をやる。」っていうのが流せるようになったんですね。それで、そういうふうイベント情報で、そういう形で流しています。

あとですね、さっき30代から40代くらいが見ている人が多いと。私たちが希望するのは正にその辺の年代なんですね。というのは町内会の役員、部長をやっている平均年齢は、60代をみんな超えている。64、5くらいになってしまうだろうか。それを考えるとうちの町内会で欲しいのは、やっぱり30、40代。ここが一番、居てほしい人材なんで、この辺を長い目で本当に地道にじっくりやっていきたいなと、そういうふうに思っています。

●谷岡会長 重光総務部長ありがとうございました。では、続きまして末岡会長からお願いします。

◎第八区自治会（末岡会長） 先ほども御紹介いただきました末岡でございます。昨年は、この市民自治推進会議の皆様モデル地区に選定をいただきまして、また、御支援をいただいていた本当にありがとうございました。また、市民自治推進課の中村課長さん、市民生活課の石井課長さんにも大変なバックアップをいただいていたので随分、御協力いただきましたことに、また改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

それで、第八区自治会というのは、既に御承知かもしれませんが、緑町と木場町と春日町の一部というふうに変な地域になっています。そして、元々は、ここは終戦後、昭和24年の1月にあそこのJRの線から北側、王子製紙から東側、全部が第八区自治会でありました。その後、あそこの今、架け替えを進めている緑跨線橋ができ上がったとき、昭和38年くらいになりますかね。その時に、支笏湖道路以東の今でいう双葉、音羽以東のところは第八区自治会から分離いたしました。そして、パイパスができました昭和41年に春日清水町内会が独立していくということで、あの辺の全体の母体になっていたのが第八区自治会なわけでございます。それだけにある意味、緑町関係の古い町と木場

町、春日の新興住宅地的なもので30年代の後半から40年にかけては、非常にそういう意味での活発な活動も多かった。運動会をちょっとやっても800人は集まったというような時代もあったわけですが、その当時から今のような状態になって高齢化が極端に進んでくる。それで、そこを売った、あるいは転居した、施設に入ったという。後は、本当に狭くても賃貸アパートができ上がってくるという、こういう町の形成になってきたわけでごさいます。それが極端にアパート多いなというふうにお感じになったのは、そのようなバックグラウンドがあってというふうにお考えをいただきたいと思います。

それで、これも既に資料として前にもお渡ししたと思いますが、第八区自治会自体としても自治会入会の勧めというのを白黒ですけども平成24年くらいからアパートに。当時は市の広報も全部、自治会で引き受けてやっておりましたので、そのときに独身のアパートは別として、それからオートロックでどうしようもないところは別として、これを配って何とか連絡をしていただこうということをやったんですが、どうもやはり効果が出てこない。自治会だけでやっても、どんなに改革しようと思っても具体的なアプローチの手段が見つからないと、一歩が踏み出せない、次にいかないという状態が続いてきました。しかし、危機感があるということで、先ほど総務部長がお話しましたように、ここに手を挙げさせていただいたというのが実態でごさいます。

こちらの方もこれはもう本当に小山田先生のお話のように、話しを聞かなければ駄目だというのですが、独身のアパートの人っていうのは、まあ、夜になっても電気付きませんよね。朝いない。そうでないところもなかなか、ちょっと。ですから、ポスティングするだけという状態だったところから足踏みしていたというのが実態です。

それと、もう一つの問題点というのが高齢化でごさいましたので、ここを何とかしなければならぬということで、これは本当にいいことか悪いことかは別としてもですね、広報の配布を市の方に委託して、それで班長さんや群長さんの広報配布が楽になった。楽になったんですけど、自治会に対する助成金が入ってこなくなるんでどうしたらいいかと。自治会だよりを印刷屋さん頼んでやってたんですが、これも思いきって回覧にしてみようということで、班長さんが配って歩くということをなくしたわけです。それで班長さんがだいぶ楽になってきた。それでも、「私のところは高齢で一人暮らしだから、回覧も回さないでください。」というような要請が結構、出てきている。そんな状態できている現状でごさいます。しかし、今回のことで役員ももう一度いろんなことを検討し直して、行事等についてももう一度見直してということで取り組んでいこうと思っていますので、今、考えている既に予算化するようなことも進めています、それは、総務部長の方からお話いただきまして。

私も総務部長も平成25年に私は会長に就任し、総務部長も一緒に平成25年から進めてきております。今年のまだ総会にかけておりませんが、既に役員会で案として持っているものをちょっと今年取組から事業計画のところを総務部長の方からお話いただけませんか。

◎第八区自治会（重光総務部長） 第八区自治会、これから総会があってこれからの話になるんですが、この平成29年度はまず、今、実際に去年始めたこのフェイスブックですね。これを十分に活用するためにはどうしたらいいのか、これをもう少し深く考えながら、進めていこうと。先ほど意見も出てましたが、地域情報をよく知るために地域のお店とか、第八区自治会にはいろんなものがあるんです。それで、その辺も見やすいように整理して発信していこうと、そういう形でいます。また、自治会としてのいろんな役員もそうなんです、もっと動きやすい形、何かないか、そういうことも会長と一緒にやりながら考えていきたいと思っています。

いろいろな事業を、行事に関して子供の参加を増やすためにはどうしたらいいのか、ここも深く考えながら。例えば簡単なのは子供たちを集めての、例えば景品、これをちょっと多くするとか、ちょっと豪華にするとか、そういうのも一つの方法かもしれませんが、そういうのも含めながらいろいろ考えていきたいなとそういうふうに思っております。

あと、うちの自治会、確かに高齢化。先ほど会長も言っておられましたけども、自治会の自治会だよりの個別配布っていうのが大変なんです。「階段、昇れない。」とか、「冬道歩くのが怖い。」とか、そういう年配の方が増えまして、自治会だよりの回覧方式にしたんですが、この高齢化というのは、ますます高齢化になっていく世帯が多くなっていくので、この辺をどういうふうにしていくのか。もっと周りの近所付き合いといいますか、これを強くしていくような何か事業をしなくちゃいけない。そういうことも考えていますので、そういうことも今後、役員会で話し合っ、何か良い策を考えていきたいと、そういうふうに思っています。

◎第八区自治会（末岡会長） それからちょっと付け加えさせていただきますけども、子供たちを集めるのは清水小学校、開成中学校ですが、清水小学校の今年の卒業生は、59名。それで、学校の中の3学年が1クラスです、6年生のうち。これだけ単独で開成中学校に行くわけですから、中学校の方も当然、そういうことだと。子供を集めようといっても絶対数が何としても他の地区から比べても居ないんですね。そこをどうやって集めようかということで、子供が来てくれたら親も来てくれるんじゃないかというような期待を持ってはいるんですが、どのくらいの効果が上がるかは分かりませんが、とにかく小山田先生のお話も伺ったようにやってみて、多少でも効果が見えるようだったら続けていくと。これしか方法がないのかと、そんなふうに考えています。それでも、まあ、とにかく何か新しいことで取り組んで進めていこうと思っておりますので、また、今後ともよろしく御支援のほどお願いいたします。ありがとうございました。

●谷岡会長 末岡会長、重光総務部長、本当にありがとうございました。委員の皆様から第八区自治会の方に御質問があればしてください。

●水口委員 総務部長に聞いたかったんですが、結構、フェイスブックを更新してるといような感じを受けて、静止画から動画という形でなるべく町民の皆さんに少しでも関心を持ってもらうような工夫をしているのは、十分、分かったんですが、結構、楽しんでやっているのでしょうか。

◎第八区自治会（重光総務部長） フェイスブックはもう一人、会計部長がいて2人でやっているんです。自分が忙しくて更新できていないときは、会計部長が全部入れてくれるんです。私もやるんですが、写真とコメントを入れると向こうがコメントを今風に変えてくれたりするんです。それを見ているだけで、やっている方も楽しいというのがあるんですよね。楽しんでやっているというのは確かかなと思います。

●佐藤委員 今、実際にフェイスブックページを検索するところから見てみたんですね。そしたら、第八区自治会と完璧に入れないとヒットしないんですよ。せっかく写真とかすごいきれいに載っているのにもったいないなと思いました。例えば八区町内会でもヒットするとか、八区の八を数字でもヒットするようにするとか、若い人や分からない人がヒットしやすいようにしたいと思います。

◎第八区自治会（重光総務部長） 考えてみます。私も冒頭で言ったようにすごく疎いんです。それで、QRコードに関しても分からないので市民自治推進課の支援で立ち上げてもらって写真に撮って開いたんです。最初の頃は開けなかったりということもあったんです。その頃から見ると大分良くなってきてるんですね。

◎第八区自治会（末岡会長） 他の町内会の方からも「第八区自治会ってどこなんだ。」と。町名が出てこないで分からない。これは、今、4つですか残っているのは。一区、二区、七区、八区くらいですか。一区は表町、二区は錦町、七区は浜町、それと八区で、昔は第十区くらいまで苫小牧市にはあったんですけれども、町名が出てこないと住んでいる人は分かっているけど、隣の人は分からないという悩ましいところなんです。

●谷岡会長 はい、どうもありがとうございます。後はよろしいですか。それでは、ただ今、皆様からいただいた御意見等を踏まえて、報告書の最終的な修正等については、私と小山田副会長に一任させていただくということでよろしいでしょうか。

#### 【委員了承】

●谷岡会長 どうもありがとうございます。それでは、了承をいただいたということで、よろしく願いいたします。(2)その他について事務局から説明をお願いします。

#### (2) その他

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは、ここで市民生活課の方からお話をさせていただきたいと思っております。石井課長の方からよろしくお願いします。

○説明員（石井市民生活課長） はい。これまで2年間にわたりまして、皆さんからのお話、小山田先生からの情報提供等をいただきまして、現場にいる者として改めて取組の具体化をしなければならないとの認識を新たにしていたところがございます。お恥ずかしいところ、なかなか前に進めなかったというのが現状でありました。その間、実は総合政策部と市民生活部が連携を図って、なおかつ、町内会活動をテーマにするということはおかしな話かもしれませんが、行政の中では珍しい取組かなと思っております。それだけに具体的なものができたかなと思っております。

この間、私どもはお話をいただいた中で、やはり情報を発信するということが非常に大事なんだと思っております。前にもお話させていただきましたが、市民への情報発信はもちろん、職員に対しての発信、町内会に対しても発信をするということでテーマを設けまして、具体的に取り組んでまいりました。特に平成28年度におきましては、そういう中で町内会連合会事務局を行政の内部に持ってきたということは非常に大きな取組かなと思っております。今後どう展開するかは分かりませんが、行政を取り巻く環境を考えたときには、やはり、本当は逆の発想なのかなというふうに感じております。それだけに胆振地域はもとより、北海道内の町内会連合会からも「どういうことがあったんだ。」という問合せが多くございました。やはり協働のまちづくりに向けては行政だけでは成り立たないということを常日頃、市長も申し上げております。そういったことを常に市民の方々に発信をしていくためにも町内会というところは必要になる、大きな力になると思っております。

私どもは現場の人間として町内会と顔の見える関係を築くという前提に動いてまいりました。当然、今お話があったようにホームページやフェイスブック、そういったものを

介しての情報発信、情報交換も大事なことかと思えますけれども、町内会に出て行く中でどういったところに課題があるのだろうか。どういったところが困っているのだろうか。そういったところが非常に身に感じた次第です。担い手不足、高齢化、そういったことも実際に肌で感じてきました。その中で時代認識というか町内会の役員の方々だけで役員を集めるといいますか、十数人の役員が集まればそれで終わったという認識が随分強いのかなという感じも受けました。そういった中で第八区自治会の取組につきましては、本当に敬意を表したいと思えます。一生懸命取り組んでおられたということでうらやましいなと思っております。それに対する支援というものは、我々、力不足であったかなという気がしておりますが、今後に向けても継続していきたいと考えています。

あとは（市民の）転入時期に合わせまして、昨年からキャンペーン、庁内で受付窓口を1階に設けまして（町内会加入促進）キャンペーンをしております。1週間程で約80名の方々が立ち寄っていただけました。それで加入申込みを受けて各町内会にまわすということも続けて行っており、併せて通常の業務の中でのPR活動ということも行っていました。これから春先に向けて公園まつりだとかそういったところでもPR活動についても新たな事業として、この市民自治推進会議に触発されてやってきました。

実は市の職員に対する御批判も十分承っておりますので、町内会の現状を伝えることも大事なお話かなと思っておりますので、職員向けの掲示板への継続的な情報発信、それから部長会議、代表課長会議における理解と併せて職員に対するアンケート調査を初めて実施をしました。正直なところ、職員の協力はあまり得られないかなと思いましたが、実は八十数パーセントという高い回収率で1,400件を超える回答をいただいております。職員も認識はしています。そういった部分で情報を流すことによって少しずつ意識が変わってきているように感じています。これはやはり継続しなければならないだろうと思っておりますので、今後も連携を図って進めていきたいというふうに思っています。

この連携ということも谷岡会長がいらっしゃいますが、町内会連合会の重要テーマとして平成29年度に向けては、第八区自治会のお話にもありましたが、PTA、商店街、JC（苫小牧青年会議所）と連携を図る。まずはこの方々に町内会の実態を分かってもらおう、協力してもらおうということを考えております。個人情報等難しい場面もありますけれども、各階各層に御理解いただければということで。一部商店街、経済界からは、そうやって言っているけれども町内会からは具体的な相談や話はないというお話もありました。したがって、積極的にもっと声を掛けていかなければならないものではないかということを感じておまして、平成29年度においてはそういった重要テーマを取り組みたいと考えているところでございます。連携を今後どう拡充していくかということは非常に重い問題ではありますが、皆さんの御意見を参考にしながら進めていきたいというのが現状でございます。以上でございます。

●谷岡会長 どうもありがとうございました。その他、事務局から何かありますか。

○事務局（吉田市民自治推進課主査） はい、それでは、その他ということで、先ほどの報告書の修正等については谷岡会長と小山田副会長に一任をいただいたということですので、報告書の完成後、谷岡会長と小山田副会長から市長に報告書の提出をお願いしたいと考えております。予定としては、今月の30日ということで考えておりますので、よろしくお願いたします。報告書の完成版につきましては、委員の皆様にご後日、送付させていただきますので、よろしくお願いたします。

○事務局（中村市民自治推進課長） 委員の皆様、本当に真摯な議論をいただきありがと

うございます。市民自治推進会議の委員の任期につきましては2年間ということございまして、本年の3月31日をもって、第5期委員の皆様の任期が終了するという事になります。今回が会議の最終回でございます。市民自治推進会議につきましては、今後も市長の附属機関としての役割を果たすため、今後においても様々な取組を進めてまいりたいと考えております。最後に委員の皆様方から、お一人ずつ御感想をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

※ 市民自治推進会議第5期委員（平成27年4月1日～平成29年3月31日）の任期満了のため、各委員から挨拶があった。

●谷岡会長 それでは、これで、今期最後の市民自治推進会議を終了させていただきます。2年間、お疲れ様でした。ありがとうございました。

### 3 閉会